

MY CAMPUS STORY

開明

新たな100年の歴史を刻む、地域に根ざした新校舎を建設



生徒の集中力を高める最新の学習環境

中学は本館2・3階に、高校は4・5階に教室を設置。間接照明を取り入れつつ、直射日光も気にならない窓設計で、授業に集中しやすい環境を実現。また本館には、最新設備を完備した生物・化学・物理の理科3教室、家庭科2教室、コンピュータ室のほか、技術室、音楽室、美術室、視聴覚室の各専門教室を設置。

地下には25m×6レーンの温水プールを新設

地下には、温水プールが新設され、中高とも学内で水泳の授業が可能となる。25m×6レーンと十分なスペースを確保し、周囲も見晴らしのよい設計を採用。先生が状況を把握しやすく、生徒の安全面確保にも配慮している。



最新設備を備えた図書室

本館に隣接した別棟1階は、最新の電子図書室。広々とした約200㎡のスペースには約4万冊の蔵書が。図書検索システムやDVD閲覧スペース、自習スペースを完備しており、自習や読書のほか、調べ学習などで幅広く利用される。



日本伝統の心と文化を学ぶ和室を設置

本館5階には、10畳の和室3部屋を設置。国際教育と情操教育の一環として、日本の伝統を学ぶ茶道・華道・和服の着付けの授業に使われるほか、かるた部の練習場としても利用される予定。



緑に囲まれた屋外庭園

食堂に面したテラス部分には、約320㎡の屋外庭園を設置。四季折々の樹木や花は雨水利用で栽培され、緑に包まれた開放的な雰囲気。安全柵の設置により安全面も配慮されている。生徒たちの休み時間や放課後の憩いの場として人気を集めそうだ。



本館8階全面を使った第2体育館

本館8階は、全フロアが第2体育館として使用される。現在、グラウンド横にある体育館と併用することで、雨天時も十分な運動スペースが確保。授業、クラブと運動の場がさらに広がる。



約250席を設置した広々とした食堂

本館5階には、中高で共同利用できる食堂を設置。約250席の広大なスペースは、屋外庭園に面しており、開放的な空間。食事や歓談と、生徒たちのリラックス空間となるだろう。



地域と生徒たちの信頼のシンボルに

新校舎の予想図。地下1階、地上8階建てでレリーフをあしらった正門をくぐると校章を掲げたシンボルタワーがそびえる。明るい色を基調としたモダンな本館周辺にはイチョウとメタセコイアのシンボルツリーや校訓の石碑などが設置される。歴史と現代的な設備が融合した学び舎は、生徒たちの成長を支え、地域のランドマークとなる。



安全・安心の免震システム

建物を支える地下1階部分の支柱には、揺れを吸収する多重層の高減衰ゴムを使用。大きな地震にも耐えられる最高位の耐震性能を保持している。地域の人々の緊急防災拠点としても期待されている。



エコ・スクールの実現

屋上には、120kW/hの強力な発電力を持つ太陽光システムを設置。またLED照明やオール電化システムの導入により、エネルギーコストを約30%削減した「エコ・スクール」に。また、一棟建築へ変わることで、グラウンド面積も拡大。

1914(大正3)年、語学に堪能な若者の育成をめざして設立された同校。以降、時代に即した教育体制を整える一方、研精して倦まずの校訓は変わらず受け継がれていす。その教育を未来へとつなぐため、2014年の創立100周年に向けて新校舎の建設が進められています。

新校舎の構造には免震システムを採用し、最高位の耐震性能を確保。外内壁には耐用年数100年のコンクリートを使い、緊急時に備えて耐震強化の貯水タンクや自家発電機も設置しています。

「安全・安心を最優先に考えました。阪神・淡路大震災クラスの地震が起きてもびくともしません。新校舎は、大切な生徒の6年間の生活と地域の方々の長く守り続けていく施設と

なります」と、建設を統括する専務理事の澤田明先生は語ります。

安全面の整備とともに自然エネルギーも積極的に活用。太陽光発電システム(120kW/h)、生活用水以外の水源への雨水利用など、地球にやさしいエコ・スクールを実現しています。

ほかにも最新設備の図書室、本館には専門教室、温水プール、屋内体育館、屋外庭園など充実した教育環境を整えています。また、教室の配置にも工夫が施されています。職員室には各教科の準備室、相談や自習ができるスペースを置くことで、生徒が質問しやすい環境にしました。

新キャンパスは今後100年、グローバル社会のリーダーを育成する礎となっていく予定です。